萩の友

第27号
令和5年（2023）3月発行
萩市文化協会
会長　有冨美子
編　集
文化協会事務局

萩・明倫学舎3号館及び萩市民ギャラリーオープニング式典

令和4年9月1日、3号館開館に合わせて式典が開催されました。1階は観光関連の事務所、2階には、市民の皆さんが創作された作品を展示する「萩市民ギャラリー」がオープンいたしました。9月1日～9月29日まで、萩市民ギャラリーのオープニング企画として「あなたが主役！萩市みんなのアート展2022」が開催されました。萩市の文化振興の拠点施設として、多くの方にご利用いただけると嬉しいです。展示に関するご相談は文化・生涯学習課までご相談ください。

萩市民ギャラリーオープニング式典の様子

2階の様子

「あなたが主役！萩市みんなのアート展2022」の様子（186点の作品）

大展示室

小展示室

萩・明倫学舎3号館の開館に思う

会長　有冨　美子

一向に収束に向かう気配もないコロナ感染拡大に慣れてきたのか、最近は慌てることもなく感染予防対策を淡々としながら過ごしています。

県内はもとより萩市では多くの文化団体が、高齢化や後継者の育成などの悩みを抱えながら活動をしています。それに追い打ちをかけるように、コロナ感染拡大の影響を受けました。中には活動休止や解散など様々な状況にあると聞いています。しかし、多くの団体が試行錯誤を重ねながら逆境をバネに新しい活動の在り方や活動の仕方を模索しながら、今を堪えています。

そんな中、令和二年より整備を進められていた萩・明倫学舎3号館が開館し、市民の創作した作品が気軽に展示できる市民ギャラリーを開設するとのお知らせがきました。

展示や発表など、市民の活動が広がる場所をご提供いただいたことに心が弾みました。

どうか明倫学舎三号館が、作品と生演奏がコラボして新しい文化を生み出したり、若者が新たな文化活動を開始したり、多くの方々が気軽に文化に触れることができる「文化の輪をつなげる」場所になって欲しいと願っています。

一方、萩市民館では令和五年一月、劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」の公演がありました。チケットはすぐに完売、公演は大盛況、幕が下りても鳴りやまない拍手。六回のアンコールとスタンディングオベーションで会場は感動の渦に包まれました。

【追記】
スワガード役の瀧山久志さん（萩市見島出身、萩高校合唱部OB）は、圧倒的な存在感と歌唱力で観客を魅了しました。

「新入会員紹介」

【団体】

・スマイルフラ

スマイルフラは、約五十名の団体で四歳から八十歳代までの仲間で楽しく活動しています。音楽に合わせて体を動かすだけでなく、曲の背景やハワイの自然・文化、ハワイ語についても学んでいます。ボランティア活動や地域のイベント出演からコンテストや競技会へのチャレンジまで、多世代それぞれの目標を見つけてチャレンジを続けています。全クラス揃っての、年に一度のおさらい会は萩市民館で開催。地域に開放し、フラを通して、地域の方々の交流や舞台芸術の振興のお役に立てればと思っています。

・アクアジーチャン

山口県萩市発3ピースバンド「AquaGeeCharn（アクアジーチャン）」二〇十六年結成。ボーカルベースのるーちー・ギターコーラスのじゅんとサポートドラムの三人で活動しています。今までに二枚のシングルと二枚のミニアルバムの計四枚のCDをリリースしました。全国各地でリリースツアーなども行っています。二〇二二年には萩市民館大ホールにてワンマンライブを行い、大盛況を収めました。萩市の音楽シーンを盛り上げつつ、全国へと活動の幅を広げています。

【個人】

・池田　廣司
・笹村　直也
・山﨑　猛

※敬称略

★新入会員募集★
萩市文化協会では、会員を募集しております。お近くに文化活動をされていらっしゃる方がおられましたら、是非お誘いください。

萩市教育文化奨励賞 受賞おめでとうございます

文化功労賞

【団体会員】
萩川柳会会員
田中 孝子（川柳）

【団体会員】越ヶ浜郷土芸能保存会（郷土芸能）

【団体会員】
Fiore Hagi（合唱）

文化奨励賞

【団体会員】
萩陶芸家協会会員
兼田 知明 （陶芸）

【個人会員】
中谷 伸（写真）

受賞されたみなさん
おめでとうございました

加盟団体主要行事一覧（令和５年４月～令和５年９月）

月	日	時間	行事名	場所	団体名
3	30日～4月3日	10時～17時	萩美術協会特別展　藤崎恒頼新作展	ふれ愛ギャラリー萩ぶらっと	萩美術協会
5	20日～24日	10時～18時	萩美術協会展	ふれ愛ギャラリー萩ぶらっと	萩美術協会
	21日	10時～17時	アンコール北浦歌謡フェスティバル	市民館大ホール	NPO法人北浦音楽芸能文化協会
6	11日	会場：13時～ 開演：13時30分～	ロス・アミーゴス田万川35周年発表会 感謝をこめて	江崎公民館	ロス・アミーゴス田万川
7	16日	14時～16時	合唱講習会	萩西中学校（予定）	萩音楽協会

令和四年度　萩市文化協会総会

令和四年六月二十五日、萩市民館小ホールで約三十名の役員・会員の出席を得て、令和四年度の総会を開催しました。

さらに、議事に続いてアトラクション、記念講演が行われました。

総会は有冨美子会長の挨拶、来賓の市長祝辞を受けた後、有冨会長が議長のもと、議事に入りました。事業報告及び決算報告、事業計画・予算などを審議し、承認されました。

■令和三年度事業報告

◎主な共催・後援事業

▽安田知博・津室ひとみジョイントコンサート（五月）

▽萩美術協会特別展長岡　進　個展（六月）

▽第二十五回北浦歌謡フェスティバル（八月）

▽山口県総合芸術文化祭二〇二一（分野別フェスティバル）

・第六十九回山口県川柳誌上大会

▽第十七回萩市美術展（十月）

▽いけばな池坊展（十月）

▽第三十七回萩・阿武・長門合同短歌大会（十月）

▽第四十八回萩市合同吟剣詩舞道大会（十一月）

▽第二十九回萩市民音楽祭（十一月）

■決算報告

【決算額】収入合計三九六、二七一円、支出合計一六、九一二円次年度繰越金三七九、三五九円。

収入は会員会費一五〇千円、対前年比一万千円の減

■令和四年度事業計画

◎主な共催・後援事業

▽第二十六回北浦歌謡フェスティバル（五月）

▽萩市民ギャラリーオープニング企画「あなたが主役！萩市みんなのアート展二〇二二」（九月）

▽第十八回萩市美術展（十月）

▽山口県総合芸術文化祭二〇二二（分野別フェスティバル）

・山口県コーラスフェスティバル（十月）

▽第四十九回萩市合同吟剣詩舞道大会

▽第三十八回萩・阿武・長門合同短歌大会（十月）

▽第三十回萩市民音楽祭（十一月）

▽文化庁アートキャラバン事業「元気やまぐち創造プロジェクト」萩公演～ピアノと室内楽アンサンブル　ブラス・クインテット（十一月）

▽花の輪・人の輪―みんなの花展―「花ひととき」（十一月）

▽宝くじふるさとワクワク劇場（十一月）

▽劇団四季ファミリーミュージカル「人間になりたがった猫」（一月）

▽第一回萩近郊芸術演奏会（三月）

◎萩の友　年二回発行（二十七号・二十八号）

■収支予算

平年並みの支出となる見込みです。【予算額】収入・支出とも五五二、三五九円。

■総会アトラクション

議事終了後、萩市出身のピアニスト長岡あゆみさんによるショパンの「子犬のワルツ」、チャイコフスキーの「ドゥムカ」等ピアノ演奏が行われ総会に花を添えられました。

■記念講演

「鉄道開業一五〇周年　日本最初の鉄道開通と井上勝」と題して萩博物館総括学芸員道迫真吾様に、明治五年（一八七二）日本で最初に開通した新橋～横浜間の鉄道建設にまつわる様々な話題を、ご紹介いただきました。

萩のアーティスト Vol.2

～二人を紹介～

今回は賞を受賞されたお二人に、お話を伺いました。

全日本川柳協会 功労賞受賞 大場　洋　氏

去る六月二十三日、全日本川柳協会（我が国唯一の川柳協会）令和四年度通常総会が開催され、八十歳越えてなお、川柳活動を活発に行っている全国の五名が受賞。大場氏は受賞時八十八歳（令和四年）ですが、今も現役で、今回その一人に選ばれました。

大場氏は平成一〇年から川柳を始め、全日本川柳協会や山口県川柳協会等数々の役員を歴任。特に、平成一八年の「国文祭やまぐち」開催に際し、萩で全国川柳大会が開催された際には成功に尽力。これを機に川柳中興の祖井上剣花坊師が萩出身であることから、ジュニアへの川柳教室の開催等、川柳斯道の啓蒙、伝承に力を入れてこられました。その結果、ジュニアの中には川柳『日本一』六人のほか、多数の入賞者を輩出し、川柳力の向上、発展に多大な成果を上げられました。このような腰を据えた地道な活動が評価されています。

又、昨年の四月から毎日新聞山口版の「防長川柳」欄の選者をされています。是非、皆さん投句されてみては、いかがでしょうか。

また、大場様には萩市文化協会創立の平成二〇年～令和三年までの、十三年間、当萩市文化協会の会報編集委員長としてご尽力をいただきました。本当に長い間お疲れ様でした。そして、この度の受賞誠におめでとうございます。

大場　洋氏（雅号・孔晶）

■萩川柳会会長
二〇一〇年～二〇二二年

■井上剣花坊顕彰会会長
二〇一〇年～現在

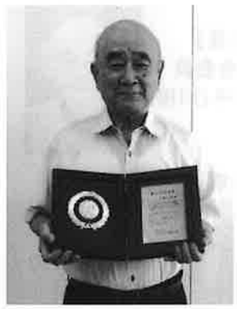
■山口県川柳協会副会長
二〇一〇年～二〇一六年

■山口県川柳協会会長
二〇一六年～二〇二二年

■全日本川柳協会常任幹事
二〇一三年～現在

■萩市文化協会編集委員長
二〇〇八年～二〇二一年

読売俊英賞を受賞 佐川　三重子　氏



国内最大級の書の公募展。今年度の「第三十八回読売書法展」漢字部門で読売俊英賞を受賞されました。作品は、八月から十二月にかけて、国内各地のギャラリーなどで展示されました。なお、読売俊英賞は今回で二回目の受賞です。

佐川氏は、小学生から「書の世界で生きたい。プロになりたい」と打ち明け、小倉國幹師から書の指導を厳しく受け、学生の頃から漢字のみならず仮名文字や書道史を勉強するうちに、さらに書の虜となりました。高校卒業後、家庭の事業で大学へは行けませんでしたが、どうしても書道の先生になりたいと、書を書き続けてきました。結婚後、子育てをしながら、大学へ通い教員免許を取得。

現在は萩光塩学院高等学校の非常勤講師として後進の指導にあたっています。指導する書道部は、昨年1月の書道パフォーマンス大会では全国5位に入る実力。パフォーマンスでは、自分たちの伝えたいことが伝わるように、字形だけでなく、服装や音楽・手話、本やビデオを見て勉強をするなど、生徒と共に日々学んでいます。

「生徒たちの部活が終わってから帰路に就くため、帰宅はいつも夜遅くなりますが、それでも、自らの時間を確保するため、朝4時に起きて、筆を握ったり、書の本を読んだりしています。書くこと以外にも何でも勉強。新しいことを学ぶことが好き。」と笑顔で話してくれました。このような、書にまっすぐ向き合う姿勢は、若い世代にも伝わっていることだと思います。この度の受賞、誠におめでとうございました。